

2 住宅・世帯の概況

(1) 総住宅数と総世帯数

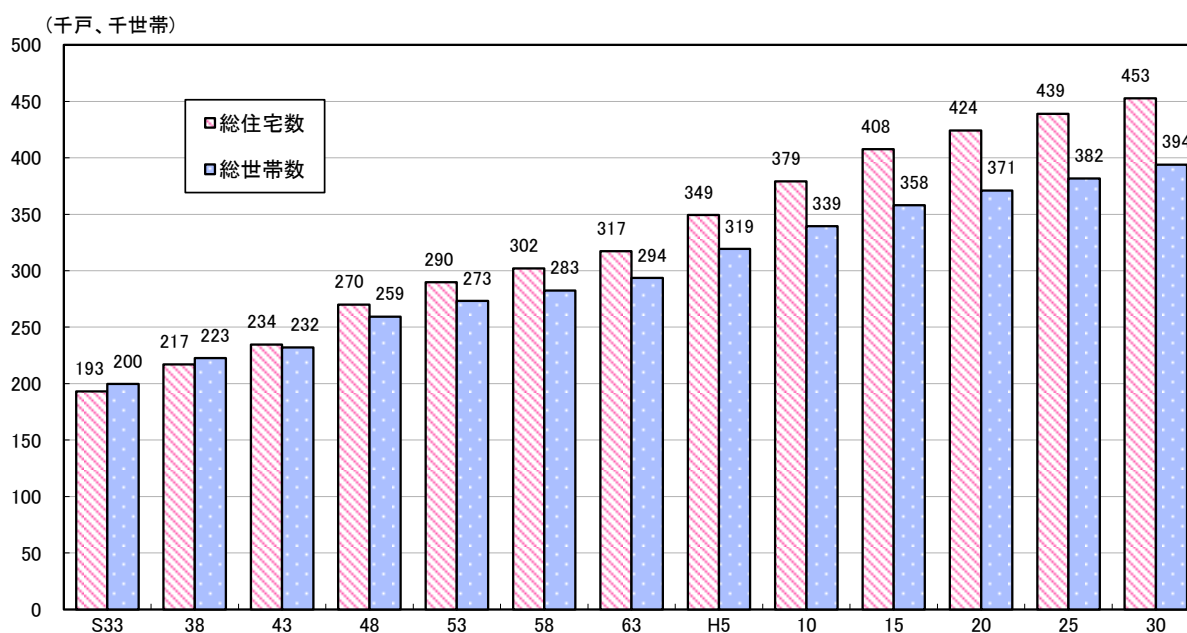
総住宅数は 452,600 戸、5 年間で 3.1%の増加

表1 総住宅数、総世帯数、世帯人員、1世帯当たり住宅数及び1世帯当たり人員の推移－富山県
(昭和33年～平成30年)

(戸、世帯、人、%)

	総住宅数	総世帯数	世帯人員	1世帯当たり住宅数	1世帯当たり人員	総住宅数増加率
昭和33年	193,000	199,800	995,000	0.97	4.98	
38年	217,000	222,700	1,027,700	0.97	4.61	12.4
43年	234,490	232,100	1,011,610	1.01	4.36	8.1
48年	269,900	259,300	1,065,100	1.04	4.11	15.1
53年	289,800	273,200	1,091,400	1.06	3.99	7.4
58年	302,100	282,500	1,112,000	1.07	3.94	4.2
63年	317,300	293,700	1,120,200	1.08	3.81	5.0
平成5年	349,300	319,400	1,120,700	1.09	3.51	10.1
10年	379,100	339,400	1,125,900	1.12	3.32	8.5
15年	407,700	357,900	1,116,800	1.14	3.12	7.5
20年	424,300	371,100	1,100,800	1.14	2.97	4.1
25年	439,000	381,700	1,075,400	1.15	2.82	3.5
30年	452,600	394,000	1,050,100	1.15	2.67	3.1

図1 総住宅数及び総世帯数の推移－富山県(昭和33年～平成30年)



平成30年10月1日現在における富山県の総住宅数は452,600戸、総世帯数は394,000世帯となっており、平成25年に比べ、総住宅数は13,600戸(3.1%)増、総世帯数は12,300世帯(3.2%)増となっている。総住宅数は昭和43年から総世帯数を上回り、その差は拡大を続け、平成30年には総住宅数が総世帯数を58,600戸上回っている。

1世帯当たりの住宅数は1.15戸、1世帯当たりの人員は2.67人となっている。

<表1、図1>

(2) 居住世帯の有無

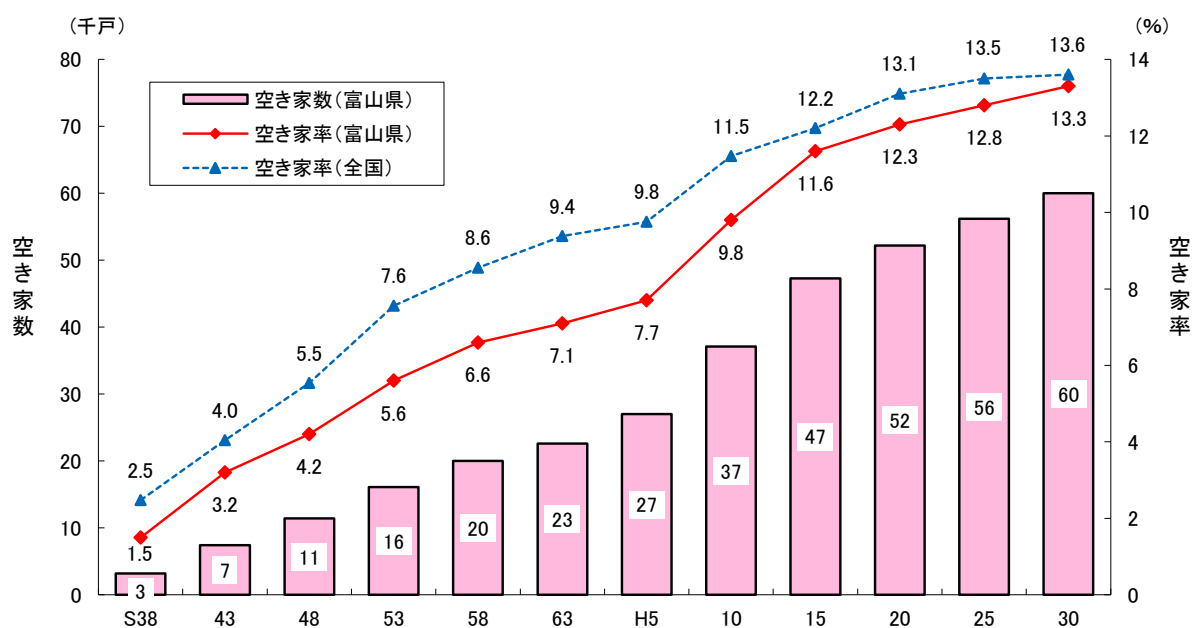
総住宅数の13.3%が空き家

表2 居住世帯の有無別住宅数及び空き家率の推移—富山県(昭和38年～平成30年)

(戸、%)

	総住宅数	居住世帯のある住宅数	居住世帯のない住宅数			空き家率(富山県)	空き家率(全国)
			一時現在者のみ	空き家	建築中		
昭和38年	217,000	212,000	480	3,200	1,000	1.5	2.5
43年	234,490	225,100	840	7,440	1,110	3.2	4.0
48年	269,900	254,300	2,100	11,400	2,200	4.2	5.5
53年	289,800	269,900	2,200	16,100	1,700	5.6	7.6
58年	302,100	279,600	1,600	20,000	900	6.6	8.6
63年	317,300	291,300	2,100	22,600	1,300	7.1	9.4
平成5年	349,300	317,700	3,100	27,000	1,500	7.7	9.8
10年	379,100	337,400	2,900	37,100	1,600	9.8	11.5
15年	407,700	355,700	3,600	47,300	1,100	11.6	12.2
20年	424,300	368,800	2,800	52,200	600	12.3	13.1
25年	439,000	379,800	2,000	56,200	900	12.8	13.5
30年	452,600	390,900	1,000	60,000	600	13.3	13.6

図2 空き家数及び空き家率の推移—富山県(昭和38年～平成30年)



住宅を居住世帯の有無別にみると、居住世帯のある住宅は390,900戸で、総住宅数に占める割合は86.4%、居住世帯のない住宅は61,600戸で、総住宅数の13.6%となっている。

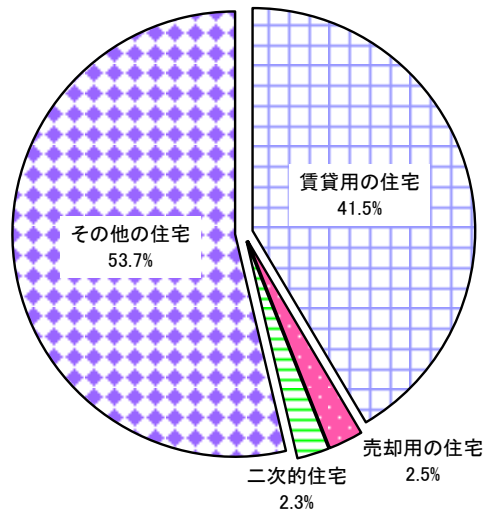
居住世帯のない住宅のうち、「空き家」は60,000戸となっており、平成25年に比べ3,800戸増加している。総住宅数に占める空き家の割合(空き家率)は13.3%(全国13.6%)で、平成25年から0.5ポイント上昇し、過去最高となっている。

<表2、図2>

(3) 空き家の内訳

空き家のうち半数以上が「その他の住宅」

図3 空き家の内訳—富山県(平成 30 年)



空き家 60,000 戸の内訳をみると、「賃貸用の住宅」が 24,900 戸で空き家全体の 41.5% を占め、「売却用の住宅」が 1,500 戸 (2.5%)、「二次的住宅」が 1,400 戸 (2.3%)、「その他の住宅」(転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅のほか、空き家の区分の判断が困難な住宅などを含む) が 32,200 戸 (53.7%) となっている。平成 25 年と比べると、「賃貸用の住宅」の割合が 2.3 ポイント増加している一方で、「売却用の住宅」(0.9 ポイント減)、「二次的住宅」(0.2 ポイント減) 及び「その他の住宅」(1.2 ポイント減) の割合がそれぞれ減少している。

< 図 3 >